

金融教育は、  
子どもたちの未来に  
必要な力を授けます。

私は、こう教えている。私なら、こうしてみたい。  
さまざまな声や思いをお寄せください。



第7回

# 金融教育を考える小論文コンクール

締切

9/30

※消印有効

特賞 × 1 (賞状と賞金30万円)

優秀賞 × 2 (賞状と賞金10万円) 奨励賞 × 5 (賞状と賞金3万円)

応募資格 | 幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教師、教職課程在籍・教職を目指す大学生、大学院生、大学教員等研究者



金融教育は、子どもたちの未来に必要な力を授けます。

私は、こう教えている。私なら、こうしてみたい。

さまざまな声や思いをお寄せください。



近年の金融をはじめとする様々な分野における規制緩和等により、私たちが利用できる金融商品やサービスが多様化するなど、暮らしを取り巻く金融環境は大きく変化しています。こうした中、消費者一人ひとりが、より豊かな暮らしを手にするためには、環境変化を読み取りながら、自らが「自己責任」を持って主体的に判断し、適切に選択して行動することが必要になっており、金融や経済に対する基本的な知識をしっかりと身に付けておくことがますます大切になってきています。

金融教育を通じて健全な社会人が育ち、そうした人たちによって“活力のある社会”が築かれることを願っています。

多くの方からの幅広いご応募をお待ちしています！



例えば**教諭・教師**なら…

体験的な学習や話し合い、ゲーム等を通じて児童・生徒が将来の生き方を考える契機となっていた等の実践例や、金融教育を推進するうえでの提言。



例えば**教職課程に在籍する、**  
または**教職を目指している大学生**なら…

「将来、取り組んでみたい金融教育」や「これから求められる金融教育」等についての意欲的な提言。



例えば**大学院生・大学教員等研究者**なら…

「これからの時代に求められる金融教育」や当委員会刊行の「金融教育プログラム」や「金融教育ガイドブック」などにある指導計画に関する提言。



例えば**ゲストティーチャー**なら…

学校で実際に行った実践報告を踏まえた提言。教育関係者と共同で執筆のうえ、ご応募ください。

金融広報中央委員会の考える金融教育とは…

「生きる力」を育む金融教育 金融教育の目標と4つの分野



1

生活設計・家計管理

生活設計、貯蓄と運用、  
資金管理など

2

経済や金融のしくみ

お金のたらしき、  
経済把握、経済政策、  
経済社会の諸課題など

3

消費生活・  
金融トラブル防止

金銭感覚、金融トラブル、  
自立した消費者など

4

キャリア教育

働く意義、生きる意欲、  
社会への感謝・貢献など

金融広報中央委員会では、毎年、金融教育の普及のため各地でさまざまなイベントを開催しております。金融教育を知るきっかけとして、こちらにもぜひ一度足をお運びください。



### 平成22年 8月9日(月) 教員のための金融教育セミナー

当セミナーでは、金融教育に関するパネルディスカッションと、小学校・中学校・高等学校の分科会において、「金融教育」に熱心に取り組まれている先生方による実践事例をご紹介します。

### 平成22年度中随時開催 都道府県金融広報委員会の教員向けイベント

全国の各都道府県金融広報委員会が開催する学校教員向けのイベントです。

### 平成22年 7月～23年 1月 金融教育フェスティバル

教員の方向けのセミナーや、暮らしに役立つ講演会と親子でお金について学ぶことができる体験型イベントを全国7か所で開催します。

### 平成22年 6月～23年 2月 金融教育公開授業(全国リレー講座)

全国各地の幼稚園、小学校・中学校・高等学校で金融を学ぶ公開授業をリレー開催。金融教育に関する授業を実際に紹介します。



教員のための金融教育セミナー



金融教育フェスティバル



金融教育公開授業(全国リレー講座)

詳しくは・・・

ホームページ

[www.shiruporuto.jp](http://www.shiruporuto.jp)

までアクセス!

## 金融広報中央委員会とは?

「金融広報中央委員会」(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立・公正な立場からの正確でわかりやすい「金融経済情報の提供」と一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を積極的に展開しています。

## ご存知ですか? 学校にお届けしています。

### はじめての金融教育



金融教育に初めて取り組もうと思われる先生向けの冊子。入門ガイドには実践ワークシート集がついているほか、実践事例を収録しています。

### 金融教育プログラム —社会の中で生きる力を育む授業とは—



学校における金融教育をより効果的に進めるためのプログラム。金融教育の意味と必要性を解説しているほか、学校段階別に指導計画を収録しています。

### 金融教育ガイドブック ～学校における実践事例集～



幼稚園から高等学校までの金融教育の実践事例を紹介した冊子。体験に基づく実践的な学習、話し合い、ゲームなどを中心として45の指導事例が収録されています。

第6回  
(2009)

# 優秀賞受賞作品発表

## これからの時代に求められる金融教育

～早期に金融教育の独立教科化、一貫教育化、専門教員を拡充することを提言する～

**永井 桂太郎さん**(東京都 早稲田大学大学院ファイナンス研究科)

筆者は、「生きる力」を意欲+環境適応能力と定義し、生きる力の一翼を担う金融教育はそうした能力を増進させる教育でなければならないと主張。現在、金融広報中央委員会が整理するキャリア教育、経済や金融のしくみ、消費生活・金融トラブル防止、生活設計・家計管理の4分野を「生活・金融経済教育」として独立教科化し、現在の「総合的な学習の時間」をこの「生活・金融経済教育」とすることを提案。本教科を小学校から高校までの一貫プログラムとするもののほか、担い手についても、証券アナリストやFPなどの有資格者を、教科専門教員として任用することなども提言している。金融教育の現状と課題をとらえた上で、独立教科化・一貫教育化といった大胆な提言とその実現に向けた具体策を述べた論文。提言型の論文の中で、現状の整理・提言内容について高い評価を得た。

## 働く喜びを引き出すキャリア教育

～木工製品の製作から販売まで～

**原田 功さん**(静岡県 浜松市立佐久間中学校)

選択技術の授業においてプリンターカバーやベンチなど木工製品を製造し、これらを販売することを通じた金融教育を取り上げている。班単位での製作作業において、買う人の視点に立つことで品質重視の姿勢が生まれ、また学校外での販売活動を開始することにより、生徒が商品売ることの難しさや楽しさを感じ、さらに、こうした経験がコミュニケーションや適正な価格決定の重要性についての気づきにも繋がったことをこの取組みの直接的な効果として報告。また、完成度の高い作品を目指すことで生徒に高い満足感や充実感を味わわせるとともに、作品の校外における販売活動の実施が、授業の本来の目的であるものづくりへの意欲向上ももたらし有効であったという点も指摘している。技術科の「ものづくり」を販売活動とつなげて実施している点が新鮮。キャリア教育の視点に立ち、生徒に製作・販売の両方を体験させるという活動に今後さらなる広がりが期待できる点が評価された。

## 地産地消にこだわる(株)「HIRAJIMA 海の幸・山の幸プロジェクト」の実践から

～金銭・金融教育のさらなる可能性を希求して～

**尾川 弘美さん**(徳島県 阿南市立平島小学校)

小学校4年・総合的な学習の時間で、地域に密着した農漁業の生産と販売を体験し、健全な経済感覚と自己肯定感を高めることを目指した内容。児童たちが200円ずつ出資して「会社」をつくり、山の幸プロジェクト(シイタケ栽培)、海の幸プロジェクト(ワカメ養殖)を農家・漁業協同組合員の方の協力を得て進め、製造・販売し、その収益金により、市の福祉協議会への車いす寄贈、人権学習でお世話になった先生との遠足などを実現。さらに、親子でおかねの価値を考える機会を設け、家庭とも連携を深めた。本実践は児童たちの自己肯定感が向上するとともに、保護者からも「生きた社会勉強」として高い評価を得た。特に大規模かつダイナミックな実践を、複数年に亘って異なる児童に対して異なる教師が指導し、継続・発展させた点が高く評価された。

## 生産・加工・販売・消費活動

～第一・二・三次産業と買い物の取組～

**森 孝太郎さん**(福岡県 添田町立津野中学校)

総合的な学習の時間の実践で、農産物を材料に栽培、加工、販売・消費の各工程を体験させる中で、生徒の金銭感覚や消費生活能力を育成に結びつける内容。サツマイモを加工したスイーツづくりでは家庭科、販売計画作成では社会科とも連携して学習を進め、生徒たちは農産物に付加価値を付けることの有効性や経営の基本、労働の厳しさ、おかねを稼ぐことの難しさなどを実感。学習のまとめとして、金融トラブルの実態やおかねの有効な使い方をテーマにした親子のマネー教室も実施し、実践前後に行った金銭感覚診断テストにおいて、生徒の金銭感覚の改善状況が見てとれたと報告されている。この実践は、複数教科のコラボレーションにより取り組まれた点が高く評価されており、今後、多くの学校で参考にできる活動とみられる。

### 第6回審査員 (敬称略)

阿部信太郎(城西国際大学准教授) 宇都宮健児(弁護士) 工藤文三(国立教育政策研究所初等中等教育研究部長・教育課程研究センター基礎研究部長(併任))  
西村隆男(横浜国立大学教授) 牧野カツコ(お茶の水女子大学名誉教授) 行成卓巳(NHK制作局第2制作センター経済・社会情報番組部長)  
須田美矢子(日本銀行政策委員会審議委員) 小林信介(金融広報中央委員会会長)



# 2010年テーマ

## 1 金融教育に関する授業や学校行事での実践報告

幼稚園や小学校、中学校、高等学校等の先生方が実践されたお金や金融・経済に関係のある授業や学校行事についてご報告ください。クラスや学年単位、あるいは学校全体での取り組みやPTA・地域と連携した事例などいろいろな実践があると思います。実践された授業や行事に対する児童・生徒の反応や感想のほか、当初の指導計画、実践して修正を要した点やさらに今後改善すべき点などをまとめてください。

## 2 これから取り組んでみたい金融教育

新学習指導要領では、価格や費用、市場における価格の決め方や資源配分、資金の流れや金融の働き、生涯を見通した経済の管理や計画等が盛り込まれるなど、金融経済教育の拡充が図られました。この機会に金融教育に取り組もうとお考えの先生方や、将来教職を目指す大学生から、児童・生徒にどのようにお金や金融・経済について教えてみたいと考えているかお聞かせいただきたいです。金融教育は社会科、家庭科に限らず幅広い教科で取り組みますので、意欲的な提言を期待しています。

## 3 これからの時代に求められる金融教育

多重債務問題・消費者トラブルの防止・職業選択等、若者が社会で自立していくためには金融教育が必要とされています。海外でも盛んに金融教育が実施されており、わが国の金融・資本市場の競争力強化のためにも金融教育の充実が必要との指摘もあります。新学習指導要領では金融経済教育の充実が図られ、教育に携わる方の意識やスキル向上が課題となっています。これからの時代に求められる金融教育のあり方について具体的な提言をお願いします。

## 4 金融教育をさらに普及していくための提言

当委員会では、学校で金融教育に取り組んでいただくために「はじめての金融教育」、「金融教育プログラム」をはじめ、各種の副教材を作成し、全国の学校にお届けしています。また、民間金融機関やNPOなど多くの機関も、様々なかたちで金融教育支援策を提供しています。こうした支援策等を利用される教育関係者からみて、今後金融教育をさらに普及していくためには、何が必要なのか意見をお聞かせください。

## 5 その他

上記のテーマに限らず、お金や金融・経済に関係のある教育について、教育に携わる立場から、幅広くご意見をお寄せ下さい。子どもをとりまく環境や現状を分析した報告などもお待ちしております。

## 募集要項

[応募資格] 幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教師、教職課程在籍・教職を目指す大学生、大学院生、大学教員等研究者

[賞] ●特賞 1編(賞状と賞金30万円) ●優秀賞 2編(賞状と賞金10万円) ●奨励賞 5編(賞状と賞金3万円)

[締め切り] 平成22年9月30日(木) ※消印有効

[発表] 12月下旬、金融広報中央委員会HP ([www.shiruporuto.jp](http://www.shiruporuto.jp)) などで発表。

[表彰式] 日本銀行本店にて開催。

[送付先] 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 神谷町セントラルプレイス3F 金融広報中央委員会コンクール事務局  
「金融教育を考える」第7回小論文コンクール係

[問い合わせ先] 金融広報中央委員会コンクール事務局 TEL. 03-6826-8930 (土・日・祝日を除く10時~17時)  
同 ホームページ [www.shiruporuto.jp](http://www.shiruporuto.jp)



# 小論文を書くにあたって

## ●作品作成上の注意

文字量	途中の空白マス・空白行を含む <b>2,000～8,000字</b> ※文末に文字数を明記して下さい。 ※パソコン出力可。 ※字数が不足、超過している作品は審査対象となりませんので、ご注意ください。		
形式	横書きを基本としてください。パソコン出力の方は、可能な限り、文書データを添付してください。		
表紙	1枚目は表紙とし、選択テーマの番号、作品タイトル、勤務先、(共同執筆の場合は代表者の)氏名、300字以内で作品要旨を記入してください。		
資料 (指導計画書、 図表、写真等)	文末に添付してください。写真等は <b>15点以内</b> に収めてください。 添付資料についても <b>出所をもれなく明記</b> してください。	分量のめやす	A4用紙の場合 <b>6枚以内</b> A3用紙の場合 <b>3枚以内</b>
引用	明記方法	本文の引用箇所末尾に(※)を付し、その <b>出所を文末、又は章、節の末尾に記載</b> してください。 引用が複数ある場合は(※1)(※2)のように番号を振ってください。  ※著書、雑誌、新聞、研究発表等からの引用は、必ず出所を明記してください。	
	明記するもの	著者、書名、引用ページ、出版社、出版年、新聞名、日付、ホームページ名、アドレス等	
その他	過去の入賞者自身あるいは入賞者の在籍校からの応募作品については、過去の入賞作品との差異や改善・発展度合いに着目して審査いたします。また、応募作品が実践報告の場合には指導計画書が添付されていることが望ましいと考えます。		

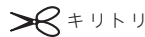
## ●応募上の注意

本リーフレット外面にある応募用紙、またはホームページからダウンロードした応募用紙に以下の項目を記入し、**応募作品の表に添付**してください。

 <b>個人執筆の場合</b>	選択テーマの番号、作品タイトル、氏名(ふりがな)、勤務先(所属先)名(ふりがな)、年齢、性別、勤務先・自宅の住所・電話番号を記入
 <b>共同執筆の場合</b>	・選択テーマの番号、作品タイトル、(代表者の)氏名(ふりがな)、勤務先(所属先)名(ふりがな)、年齢、性別、勤務先・自宅の住所・電話番号、執筆者の人数を記入 ・ <b>応募用紙とは別の用紙に、共同執筆者全員の氏名、勤務先(所属先)名(ふりがな)、勤務先・自宅の住所・電話番号を明記して、応募作品に添付</b> してください。 ※共同執筆者の過半が応募資格を満たしていなければならないものとします。

※作品は未発表で日本語に限ります。 ※作品は理由を問わず返却いたしません。 ※入賞作品の著作権・版権は主催者に帰属します。  
 ※規定外の作品は審査対象から外します。 ※応募用紙はコピー可能です。 ※応募の際は下記個人情報の取扱いについてご確認ください。

個人情報の取扱いについて	●応募者の個人情報は、入賞作品の選考、入賞者への連絡のためにのみ使用し、主催者ならびに当コンクール業務受託先が責任をもって管理いたします。●応募者本人の許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。ただし、法律や法的拘束力のある命令等に基づいて開示が要求された場合については、その要求に応じることがあります。●入賞者の氏名・勤務先(所属先)及び作品の一部は金融広報中央委員会ホームページ等にて公表させていただきますので、予めご了承ください。
--------------	---



## 「金融教育を考える」第7回小論文コンクール 応募用紙

※応募者の個人情報は当コンクール以外の用途には使用いたしません。

選択テーマの番号	作品タイトル	ふりがな 勤務先(所属先)名		
ふりがな お名前	※共同執筆の場合は、代表者のお名前のみご記入下さい。	年齢 歳	性別 男・女	※共同執筆の場合のみ記入 代表者 含む計 名で執筆
勤務先(所属先)住所 (〒 - ) 都道府県 市区郡				
ご連絡先 (〒 - )				
自宅住所 (〒 - ) 都道府県 市区郡	※マンション・アパート名等も必ずご記入下さい。			
自宅電話番号 ( )				

※お手数ですが下記のアンケートにご協力をお願いします。

●このコンクールはどちらで知りましたか?(複数回答可)

1.ポスター 2.チラシ 3.新聞や本 4.ホームページ 5.知人から 6.その他( )

※応募に際し下記内容に相違がなければ必ず  に  を入れてください。

この作品は当コンクールのために私が新たに執筆した未発表のものです。

事務局記入欄